

今週（11月6日から11月10日）の短期金融市場動向

●インターバンク市場

今週のインターバンク市場は、前週に引き続き資金調達ニーズの強い展開となった。  
無担保コールO/N物は、前週末からの地合いを引き継ぎ、週初6日(月)から8日(水)までは資金調達ニーズの強い展開となり、▲0.01～▲0.008%近辺での出合いが中心となった。9日(木)以降は、オファーサイドの一部に資金運用ニーズの高まりが見られた事で、レート水準が若干低下し、▲0.02～▲0.008%近辺での出合いが中心となった。  
ターム物は、ショートタームを中心に▲0.02～▲0.01%近辺で出合いが散見された。  
日銀当座預金残高は、6日(月)に10年債発行を主因に546兆円程度まで減少して始まったが、その後は国債買入オペ等を要因に547兆円前後での推移となった。

●レポ市場

今週のGC T/N物は▲0.17～▲0.12%近辺での推移となった。積み期が終盤に近付いている事や国債入札があったことから、週を通してオファーがやや優勢な展開となった。  
SC取引の個別銘柄では、2Y440～452回、5Y150～162回、10Y355～372回、20Y175～185回、30Y65～79回、40Y10～16回などで引合いが多く見られた。

●短国市場

今週の短国市場は、6Mと1Yゾーンは概ね横ばい圏で、3Mゾーンは入札を受けて堅調に推移する展開となった。  
7日に実施された短国買入オペは前回と同額の1,000億円でオファーされ、やや弱めの結果となった。  
9日に実施された6M物入札は無難な結果となり、結果発表後のセカンダリーマーケットでは小じっかりと推移した。10日に実施された3M物入札は強い結果となり、結果発表後のセカンダリーマーケットでも堅調に推移した。

●CP市場

今週のCP市場は、石油等の一部業態からまとまった発行が見られたものの、全体としては案件が少なく、比較的穏やかなマーケットとなった。  
市場残高は、先週に引き続き26兆円台前半と高水準で推移している。  
発行レートについては、日銀適格担保銘柄の3M以内の案件については、引き続きキャッシュ潰しのニーズが強く、0%近辺での出合いが中心となった。一方で、4M以上の案件では政策変更の警戒感からか、レート水準にばらつきが見られた。また、非適格担保銘柄や、一部のノンバンク銘柄では、投資家目線の上昇が見られた。  
9日(木)に行われた、CP等買入オペは、事前予定通り、4,000億円でオファーされた。結果は、按分レート▲0.003%、平均落札レート+0.004%と、前回比（按分0.000%、平均+0.023%）で按分レート・平均レートともに低下した。

●短期金融市場関連指標

	日経平均 (円)	新発10年物 国債利回り (%)	為替 (ドル/円中心相場)	無担保コールO/N (加重平均・%)	東京レポレート(翌日物・ T+1スタート・%)	日銀当座預金残高 (億円)
11/6 (月)	32,708.48	0.870	149.62	△ 0.011	△ 0.155	5,462,400
11/7 (火)	32,271.82	0.875	150.06	△ 0.010	△ 0.161	5,477,800
11/8 (水)	32,166.48	0.845	150.61	△ 0.010	△ 0.164	5,483,800
11/9 (木)	32,646.46	0.835	150.96	△ 0.011	△ 0.137	5,485,900
11/10 (金)	32,568.11	0.850	151.33	△ 0.014	△ 0.125	5,469,500

## 来週（11月13日から11月17日）の短期金融市場動向

### ●経済カレンダー

	国内主要経済指標	国債等入札予定			海外主要経済指標
11/13 (月)	10月の企業物価指数(日銀 8:50)				10月の米財政収支
11/14 (火)		5Y 25,000億円 11/15発行	交付税借入 13,000億円 11/22借入		10月の米消費者物価指数 7-9月期のユーロ圏GDP2次速報
11/15 (水)	7-9月期のGDP 1次速報(内閣府 8:50)				10月の米小売売上高 10月の米生産者物価指数 9月の米企業在庫 10月の英消費者物価指数
11/16 (木)	9月の機械受注統計(内閣府 8:50) 10月の貿易統計(財務省 8:50) 9月の第3次産業活動指数(経済産業省 13:30) 9月の石油等消費動態統計(経済産業省 13:30)	TB1Y 35,000億円 11/20発行	流動性供給 5,000億円 11/17発行	国有林野借入 736億円 11/27借入	10月の米鉱工業生産・設備稼働率
11/17 (金)		TB3M 56,000億円 11/20発行			10月の米住宅着工件数 10月のユーロ圏消費者物価指数改定値

### ●資金需給予想

単位：億円	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ種類	期日分	新規実行分	オペ合計	実質過不足	需給要因
11/13 (月)	500	▲ 5,900	▲ 5,400	国債買入 国債補完 CP買入	40,600 ▲ 100	12,100	52,600	47,200	TB3M発行▲56,000 償還58,000
11/14 (火)	1,000	▲ 4,000	▲ 3,000	CP買入		4,000	4,000	1,000	源泉所得税揚げ 社会保障費等
11/15 (水)	500	▲ 27,000	▲ 26,500				0	▲ 26,500	5Y発行▲25,000 個人向け3・5・10Y発行▲3,500 3・5Y償還660
11/16 (木)	500	▲ 4,000	▲ 3,500				0	▲ 3,500	労働保険料揚げ 交付税借入▲13,000償還13,000
11/17 (金)	▲ 500	▲ 5,000	▲ 5,500				0	▲ 5,500	流動性供給▲5,000
週間合計	2,000	▲ 45,900	▲ 43,900	—	40,500	16,100	56,600	12,700	

11/13は日銀予想、11/14以降は当社予想

### ●短期金融市場の見通し

インターバンク市場は、積み期終盤となるため、15日(水)までは引き続き高水準での出合いが見込まれる。新積み期となる16日(木)以降は、基準比率が66.0%に低下するため、レート水準もやや低下し、落ち着いたスタートとなる事が予想される。債券レポ GC T/N物は、参加者のスタンスに大きな変化がなければ、レートは▲0.20～▲0.10%程度の水準で推移することが見込まれる。短国市場は、16日に1Y物、17日に3M物の入札実施が予定されている。また、14日に実施が予想される短国買入オペは、1,000億円程度が見込まれる。CP市場は、五十日に当たる15日発行を控えており、発行動向が注目される。

主要なイベントは、国内では13日に10月の企業物価指数、15日に7-9月期のGDP 1次速報、16日に9月の機械受注統計、10月の貿易統計、海外では、14日に10月の米消費者物価指数(CPI)、7-9月期のユーロ圏GDP2次速報、15日に10月の米小売売上高、17日に10月のユーロ圏消費者物価指数改定値などの発表が予定されている。

◆本資料は信頼できると思われる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。

◆本資料は何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされますようお願い申し上げます。

◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂くものがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目論見書をよくお読みください。

セントラル短資株式会社 登録金融機関関東財務局長（登金）第526号 日本証券業協会加入